



No. 111 2013. 7

(株) よかネット

NETWORK

公共施設をまるごと包括管理する取り組みとは？
 — 公共施設マネジメント勉強会報告 — 2

地域の防災力は地域の方で高めていく
 — 岡垣町自主防災会長ヒアリング結果 — 4

第 91 回地域ゼミ あなたの知らないチクゴを見て回ろう！
 — 筑後船小屋まち歩き報告 — 6

見・聞・食

「へいちくの新名物！？ホルモン列車走る」 8

大分（中竹中・別府）防災研修&慰安ツアー 9

東日本大震災地の復興状況を視察
 岩手県（釜石市、大槌町、宮古市）を訪ねる 11

コンクリートブロック塀より垣根のまちづくりを目指す
 — はこざきどんどん倶楽部の活動報告 — 15

近況

アドテック九州に出展しました 18

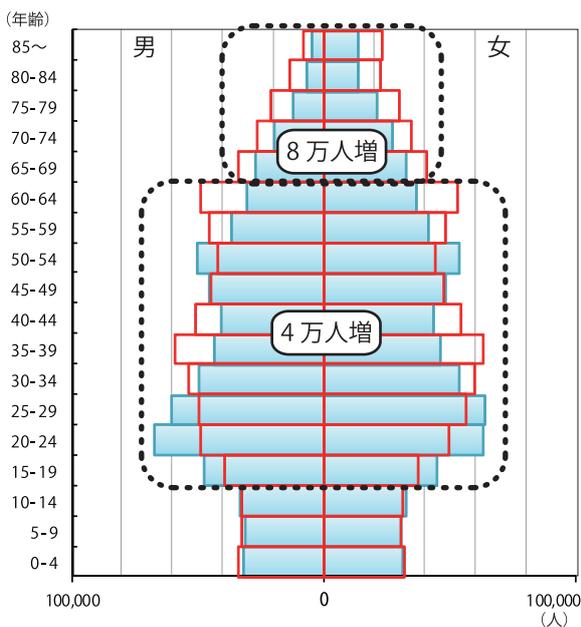
お知らせ

公共施設のマネジメントセミナー 20

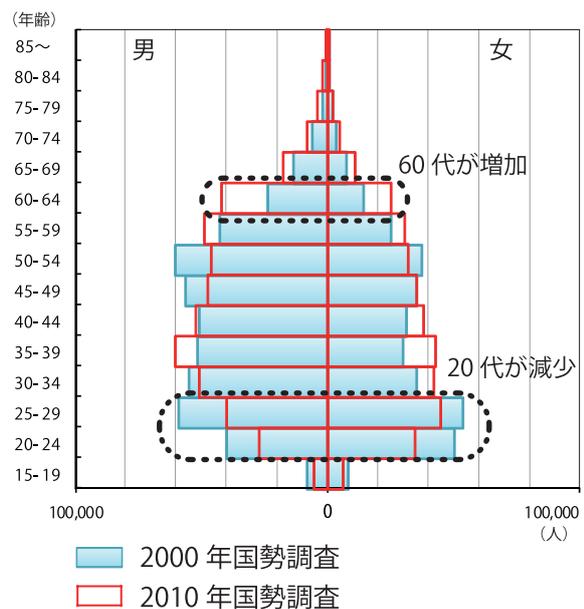
福岡市の人口が 150 万人突破！一方で忍び寄る人口・就業者の高齢化の波

2013 年 5 月、福岡市は、市の人口が 150 万人を突破したと発表した。国勢調査によると、福岡市の人口は 2000 年から 2010 年までに約 12 万人増加しており、その内訳は 65 歳以上の人口増加分が 8 万人、15～64 歳の生産年齢人口増加分が 4 万人であった。一方で、福岡市で働く 15 歳以上の就業者は、同期間で約 1,000 人しか増加していない。詳細を見ると、20 代の就業者は約 5 万 6 千人減っている一方、60 才以上が約 4 万 4 千人増加しており、福岡市の労働力は高齢者の方に移行している。定年制の延長、単身高齢者の増加など、高齢者が働かざるを得ない社会環境ではあるが、若い人たちが働く場、環境整備が求められている。

福岡市の年齢別人口



福岡市で働く 15 歳以上就業者数



公共施設をまるごと包括管理する取り組みとは？

—公共施設マネジメント勉強会報告—

本田 正明

世間を賑わせているのは、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）であるが、今回の話題はPPP（公民連携）の取り組みである。

前号で、公共施設の状況を統計資料から分析しようと試みたが、なかなかデータが揃わず、難しさを感じた。また九州では、公共施設白書の取り組みもあまり進んでいないことから、なかなか自治体の状況も把握できない。

そこで、まずは民間が行なっている自治体資産の経営・活用状況の事例を勉強することにした。事前の勉強会で、PPPの基礎を大成建設の宮脇さんに教えていただいたのだが、その際、香川県まんのう町で中学校の改築と図書館等を複合化させたPFI事業と併せて、町内の全小中学校と公共施設（計62施設）を包括管理している事例を伺った。そのプロジェクトの担当者が内部にいるということから、さっそく勉強会にお招きした次第である。

講師は、公民連携プロジェクトを担当している原耕造さん。まんのう町だけでなく、千葉県我孫子市や流山市でも30を超える公共施設の包括管理を行なっているため、勉強会では、個別の事例ではなく、包括管理の全体像について教えていただいた。

●先送りできない公共施設のマネジメント

最初に見せていただいたのは、老朽化している公共施設の衝撃的な写真だった。昔は、どこ

の小学校にも用務員さんがいて、ちょっと壊れたものがあつたりすると修繕したり、関係部局に連絡を行なったりしてくれていた。しかし、現在は人件費の削減で、夜間警備による見回りぐらいしか行われていないため、施設の老朽化の状況が把握できないケースも多いそうである。すでにこれだけ深刻な事態が発生している現状をみると、公共施設のマネジメントはけして先送りできない問題だと思った。

●横串型の包括管理

一口にPPP（公民連携）といっても幅が広い。古くは第三セクター方式からPFI、指定管理者も含む概念である。ただ、これらの取り組みは、専門性や個別性の高い業務の委託が中心となっている。これに対し、包括管理というのは、専門性や個別性の低い共通業務を部門や課を超えてまとめて管理しようというものである。

たとえば、電気設備や空調設備、エレベーターの保守点検などは、どの施設でも共通するものである。しかし、担当する課が異なれば、それぞれの部局で委託等の発注業務が行われているのが普通である。それを包括して1つの発注にまとめることで、事業コストを削減するというものだ。発注業務自体も減るので、行政職員の業務コストも削減できる。

いくつもの施設を一括で管理しているので、地元の既存事業者からの反発もありそうだと



屋上のドレン詰まりによる水溜まり

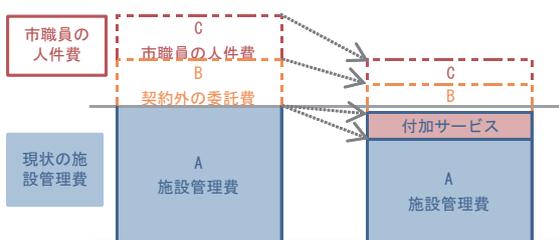


吸排気ファンのドレンパン脱落

横串型の包括管理のイメージ



包括管理業務の費用イメージ



思ったのだが、もともと、大手が得意な分野は、施設警備やエレベーター点検などの共通化されている業務であり、そこには地元の事業者は少ないそうである。大手のスケールメリットでコストを削れる分野で削減することで、全体の事業費を下げている。

●コスト削減ではなく、施設をどう維持管理していくかが大事

ただ、包括管理の目的は、コスト削減にあるわけではない。

「本当の目的は、施設をどう維持管理していくかです。これまで公共施設の維持管理には、十分な費用が確保できていません。今後ますます厳しくなる行財政運営の中で、今後増加していく施設の維持管理費を確保していかないとけません。そのための包括管理なんです」と原さんが言われるように、包括管理ではこれまでとほぼ同額で業務を請け負う代わりに、中短期修繕計画などの管理・運営サポートを付加サービスとして行なっている。これまでの予算の範囲内で、施設の不具合の予防や応急処置を行う「かかりつけ医」的な役割を担うことが、包括管理の最も重要な部分となっている。

●包括管理をどうやって導入するか

包括管理は、部門横断的な取り組みなので、公共施設全体の修繕計画などにも取り組みやす

施設別の業務一覧（イメージ）

	担当課名	施設名	電気工作物	消防設備	空調設備	浄化槽	自動ドア	EV・ESC	雨水貯留槽	高架水槽・受水槽	巡回業務
1	財政課	本庁舎	○	○			○	○	○		○
2	財政課	第二庁舎		○			○				○
4	健康福祉課	保健センター	○	○			○	○			○
5	都市計画課	駅自由通路		○				○			○
6	教育振興課	○○小学校	○	○	○						○
8	教育振興課	○○中学校	○	○		○		○			○
10	社会教育課	中央図書館	○	○			○	○			○
11	社会教育課	中央公民館	○	○	○		○	○			○
12	消防署	消防署	○	○							○

※各図表は大成建設提供資料

い。むしろ、どうやって自治体に包括管理を導入しようという気になってもらうの方が難しい。首長や担当者の思い、決断力に依存する形では、なかなか一般の自治体には広まりそうにないと思ったのだが、我孫子市では、提案型公共サービス民営化制度によって、この包括管理の取り組みが採択されたそうである。この制度は、民間事業者が自治体に対し、自由に提案を行える制度で、平成 18 年から導入され、24 年度で 5 回目を迎える（20、21 年は未実施）。一番のポイントは、採択された事業は原則 3 年間、提案者に委託されるというインセンティブがあることだ。24 年には 1,054 事業もの提案がなされている。

流山市では、さらに一歩踏み込んで、ファミリーマネジメント施策の一環として、市内の施設の保守管理、点検、法定検査、維持管理等を包括的に業務委託する公募が行われている。

どちらの取組みも詳細な仕様を決める前段階から企画提案を募ることで、民間事業者の優れたノウハウを最大限活かすことができ、自治体にとっても大きなメリットを生んでいる。

このような制度は、他の自治体にも参考になるものだと思う。これから、公共施設マネジメント白書や計画の策定を考えている自治体には、ぜひ、その具体的な取り組みまで一緒に考えてほしいと思う。

8 月 1 日には、公共施設マネジメントの第一人者の方々をお招きして公共施設マネジメントを考えるセミナーをアクロス福岡で開催する予定である。詳細は最終頁に記載してあるので、興味のある方はぜひご参加ください。

(ほんだ まさあき)

地域の防災力は地域の力で高めていく
—岡垣町自主防災会長ヒアリング結果—

寺山 香

昨年度より係わっている災害時要援護者支援計画の事業において、福岡県下10市町村・10地区で防災避難訓練を行いました。

3月中旬の日曜日、岡垣町の旭南区が開催した防災避難訓練では、写真撮影と炊き出し等のお手伝いをさせていただきました。この防災避難訓練の最中、自主防災会長の橋村魁氏と立ち話をしていると「この地区では、新たなコミュニティづくりの仕掛けとして、防災を取り入れた」とおっしゃられました。また、防災活動も熱心に取り組まれているとのことで、これは是非、改めて話をお聞きしようと思いました。

そこで、防災避難訓練の1ヶ月後の4月中旬、改めて自主防災会長である橋村氏に自主防災組織設立のきっかけや取組の状況についてお聞きしました。

●岡垣町旭南区について

岡垣町旭南区は岡垣町の中心部から少し東側に位置する、昭和56年頃に開発された団地で、人口約650人（高齢化率20%）、戸数は245戸と、小さいながらも比較的若い世帯が多い地区です。

旭南区は高台にあり、ハザードマップで地域をみると、浸水想定地域には入っておらず、風水災害には強い地域です。しかし、この地区は、出入口は1箇所しかないため、地震になった場合に孤立するかもしれないとの危機感をもっておられ、地震災害を想定した防災体制と防災避難訓練をされています。

※ハザードマップ…自然災害による被害を予測し、予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲および被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報を地域ごとに既存の地図上に落とし込んだもの。

地区内の大きな課題としては、住民の世代間の意識の違い、ギャップの大きさが挙げられています。地域内に賃貸アパートが5棟あり、若

者が40人ほど入居しているそうですが、地域の方との接点が少なく、どんな方々が住んでいるのか分からない状況にあります。

また、地域内で駐車禁止場所があるにも拘わらず、路上駐車が後を絶たないなどの問題も抱えています。

●旭南区自主防災組織立ち上げの経緯

旭南区の自主防災組織立ち上げのきっかけとなったのは、地域の盆踊り問題でした。旭南区では毎年盆踊りを開催していたものの、開催の手間等から、かねてから辞めたほうがいいのではないかと、という意見が多い状況にありました。一方で続けたいという意見もあり、盆踊りについてのアンケート調査を行いました。その結果、圧倒的に辞めたいという意見が多かったため、盆踊りを止め、代わりに地域のコミュニケーションが取れて、みんなが納得して行えるイベントを企画することになりました。

そこで検討されたのが、当時国によって推奨され始めていた自主防災組織立ち上げでした。平成20年度事業として平成19年度の総会にかけたところ、福岡西方沖地震の影響もあり、「防災ならば」という意見が多く、計画が承認され、平成20年11月に初めて防災避難訓練を行ったそうです。それ以来現在までに防災避難訓練は5回の開催となりました。

●防災避難訓練開催までの道のり

お話だけをお聞きすると自主防災組織の立ち上げから防災避難訓練の開催まで、簡単にされたように聞こえますが、特に防災避難訓練の開催までの道のりは平坦なものではなかったようです。

まず、区の5役に防災避難訓練開催を説得したあと、組長さんたちを説得されたそうですが、住民の一部の方からは不安な声も上がっていたそうです。しかし、組長さんをはじめ住民の方には何度もしっかりと説明会を行い、納得していただくことに努められました。

また、初めの頃は「自分たちだけでは出来ないだろう」という意見もあったそうですが、「計画してもできないのであれば、本番になってはもっとできない。だからダメでもともと、やっ



要援護者の避難の様子

てみよう」と、組長さんをはじめ住民の方に納得してもらうまで何度も説得を行うことで、防災への取り組みに対して、少しずつ前向きな雰囲気を作っていたそうです。

引き継ぎに関しても組長さんは1年交代なので、防災避難訓練を始めて5年目の今、少なくとも各組に5人はノウハウを持った住民がいることで、ノウハウの蓄積を行っています。

●「想定外の事態」を想定した防災避難訓練の開催

現在、開催している防災避難訓練の参加率は80～100世帯程度と、3割以上の世帯が参加しています。「1回目をうまく開催するのは難しかったのではないですか」とお聞きすると、私の予想に反して、第1回目に綿密な計画を練ったため大成功を取めたそうです。第2回目以降も見直しながら続けている状況であるとのことでした。

また、旭南区では災害時の役割分担（救護班、情報班）を決めてはいるものの、災害時には「助けることができる人が助けに行く」ことを考えながら防災避難訓練において活動をされています。

旭南区の防災避難訓練の特徴として、元看護師さんを中心とした救護班が組織され、実践的な救護訓練を行っていることが挙げられます。

防災避難訓練では、支援者とともに避難された要援護者を、救護班が公民館の集会室に安静に寝かし、血圧測定など身体の状態を逐次確認されていました。他の地区ではなかなか見られない光景でした。

旭南区では、その他にも防災避難訓練と同時



炊き出しの様子

に住民への救急救命のレクチャーを行っており、住民の方々も本格的な訓練を間近でみることで、防災意識がさらに高まるのではないかと思います。この救護訓練は好評で、看護師さんからももっと災害時の救護について勉強をしたい、との声が挙がっているとのことでした。

また、夜の防災避難訓練も行ったそうですが、段取りや情報伝達など、様々な混乱が起きたそうです。寒さの面や高齢者への対応など、課題が多く残ったので、次回は反省点を活かして訓練を行いたいとのことでした。

防災避難訓練は、事前のスケジュール管理のため、住民には工事工程表を利用して綿密な段取りを計画した上で説明し、役割分担をされているそうです。なぜ、そこまできっちりできるのか気になり、橋村氏に前職をお聞きしたところ、鉄道の施設管理に係わるお仕事をされていたそうで、綿密な運行管理も納得がきました。

現在は地域で発電機も購入し、目指すは災害時には行政に頼らず自分たちだけで3日間過ごせるような組織づくりを行うことだということで、本当に災害が発生することを見据えた実践的な防災避難訓練を行なっているなど驚きました。

●「防災」を活かしてよりよいまちづくりへ

地域の課題である駐車場問題ですが、防災避難訓練時に消防車の通行道路などを駐車禁止道路として設定し、いざというときに車が停まっていたら危ない、ということで啓発しているそうです。また、救護訓練を通して、AEDを公民館に置くのではなく、本当に必要なところに設



救護班によって血圧測定等がおこなわれた
置してほしいとの声も高まっているとのことでした。

橋村氏に今後自主防災活動を行う地域の方々へ伝えたいことは何ですかとお聞きしたところ、「地域においては、まずは役員、組長さんを説得することから始まると思う。防災避難訓練を行えるか否かは、区長さん、もしくは地域

のリーダーの方がどれだけやる気を出せるかにかかっていると思う」とおっしゃっていました。

旭南区は、若い世帯が比較的多い地区ですが、そのような地域においても後継者となりうる人材探しは、これからの課題のようです。

東日本大震災の1年後に実施した国民意識調査によると、どの年代でも防災意識は高まっています。しかしながら、時間の経過とともに、その意識は、薄れていきます。これからの若い人たちには、いつまでも防災意識を持ってもらうことが大切です。

私は、今後、どのようにして若者の防災意識を高めていくのか、防災意識の高まりとともに、どのようにコミュニティ活動に参加していくのか、10年、20年後を担う世代として気にしていかなければいけないな、と感じました。

(てらやま かおり)

第91回地域ゼミ

あなたの知らないチクゴを
見て回ろう！

—筑後船小屋まち歩き報告—

本田 正明

「九州芸文館（以下、芸文館）」をご存知だろうか？今年4月、九州新幹線のJR筑後船小屋駅の真向かいにできた県営の芸術文化交流施設である。太宰府のスターバックスなどで有名な隈研吾氏の設計で、ひときわ目立つ建物なのだが、数年前の構想段階からいろいろと関わらせていただいた。

調査で地元を回っていたころから、筑後には恋木神社や船小屋鉱泉、内野樟脳、コガコーラなど地域づくりのテーマが多く、取り組みも盛んだと思っていた。芸文館で交流担当をしている安西さんがそのほとんどに関わっていることを知り、一度地域ゼミで話をしてもらいたいと考えていた。

しかし、内野樟脳などは現地で見ただけでよっぽど印象に残るし、地元の観光づくりの参考にもなるということで、今回はまち歩きというカ

タチでゼミを行った。当日は、地元の関係者も含め、18人の方に参加いただいた。まち歩きの様子は、写真を見ていただくとして、ここでは企画運営での顛末を紹介し、今後の筑後船小屋のまち歩きの可能性を考えたい。

企画を立ち上げた時点で一番、悩ましい問題となったのは昼食場所だった。第一、第二候補は、休みだったり、条件が合わずに使えなかった。芸文館の中にも飲食店があるのだが、まち歩きの構成を考えると、スタート地点ではなく、移動の休憩も兼ねられる場所にしたい。安西さんに、地元の居酒屋に昼食を出してもらえないかと交渉してもらい、なんとか場所を確保することができた。船小屋鉱泉で炊いたごはんやハヤの甘露煮など、地元らしい食材を提供していただいたので、結果的には地域の新しい商品開発にもつながる取り組みができたのでよかったと思う。

もう一つの懸案事項が距離の問題だった。芸文館のある筑後広域公園は192.6haもある巨大な公園で、歩くとなるとかなりの距離になる。実際には10km以上歩く結果になったが、天気が薄曇りであり、途中、何度も休憩を挟んだこ



①隈研吾氏の設計した九州芸文館からスタート



②津留館長に施設の説明をしていた



③大正15年にできた鹿田写真館



④親子3代目でカメラマンの鹿田さん。ポラロイドで記念に集合写真を撮っていただきました



⑤昼食は、居酒屋フカマチで筑後づくしのおもてなし。ハヤの甘露煮で御飯何杯でもいけます



⑥内野樟脳の様子。2トンの楠から30kgしか樟脳は取れないそうです



⑦説明後は、貴重な樟脳オイルをこそって購入していました



⑧船小屋鉱泉と長田鉱泉を飲み比べ。みんな飲みやすい長田鉱泉がいいようです



⑨最後はコガコーラとコカコーラの飲み比べ。評価は上々

ともあって問題は生じなかった。ただ、猛暑の夏場には実施は難しいという印象を持った。それと、今回は地元の参加者も多数ということで、現地集合にしたのだが、土地勘のない人にとっては参加のハードルを上げていたようで、参加しづらいとの声も聞いた。今後の反省材料である。

飲食場所の確保や、鹿田写真館、内野樟脳のスペースを考えても、受入人数としては、どうやら15人程度が適正な規模である。しかし、この規模でまち歩きを成り立たせるには、客単価を上げるか、お世話する側の関わりを極力減らすしかない。

幸いにも今回、芸文館だけでなく鹿田写真館や内野樟脳の見学での参加者の満足度は高く、樟脳オイルもみんな購入していた。コガコーラや鉱泉なども関心が高く、おみやげにもなる。

昼食場所が確保できれば、お金を落として貰える場所はさらに増える。まち歩き後の反省会では、鹿田写真館で撮影サービスなどもできそうだと盛り上がった。

今回は、ルート of 都合や九州北部豪雨の影響で紹介できなかったが、巨大な楠の群生地である中之島や温泉などの素材もまだまだ残っている。こうした資源をうまく活かせば、コーディネーター付きでも、まち歩きが成り立つのではと思う。一方で、ウォーキングのように参加者が自由にまち歩きを行うプランも面白そうだ。具体的にやってみると、次の展開が見えてきて面白い。

また、レベルアップした企画をしたいと思うので、その際にはぜひご参加ください。

(ほんだ まさあき)

「へいちくの新名物！？」 ホルモン列車走る」

山崎 裕行

よかネットで5号連続となるが、今回も平成筑豊鉄道の話である。さる5月29日(水)に、平成筑豊鉄道と「田川ホルモン喰楽歩」とが協働することで、「ホルモン列車」が走った。今回は、本格実施に向けての試乗会であったが、運良く参加出来たのでご紹介したい。

ホルモン列車という、九州では「くまがわ鉄道」さんが「焼酎ホルモン列車」として運行している。こちらは、熱々のホルモン料理をつまみに球磨焼酎の飲み比べという内容である。他の鉄道会社でも同様の取り組みはあるが、平筑は、何と車内で、自ら調理して食べるという画期的なものであった。

●当日の行程

当日、何とか天気も持ちこたえ、18:30に関係者一同、金田駅に集合した。総勢で40名以上が待ち構える中、今回のために、畳とテーブルが敷き詰められたホルモン列車がホームに入線し、皆、靴を脱いで乗車した。ちょっとしたお座敷列車である。18時42分に金田駅を出発し、まずは行橋方面の田川伊田駅を目指して出発した。車内では関係者の挨拶、行程の紹介などに続き、早くも乾杯の発声がかかった。ホルモン鍋の調理は田川伊田駅に着いてからということで、しばし、おつまみとお酒で会話を楽しんだ。

列車に揺られながら会話を楽しむというのは



ホルモン列車の車内

どこか懐かしさを感じる。最近、夜行列車や長距離列車がなくなり、また座席も4人掛けのいわゆるボックスシートが減って、会話を楽しみながら、車窓を眺めながら、というのは少なくなかった。そうこうしているうちに、列車は田川伊田駅に到着した。ここで第1回目のトイレ休憩となった。

田川伊田駅を出発すると、列車は油須原駅を目指して進み出した。いよいよホルモン鍋の登場である。停車中に田川ホルモン喰楽歩の皆さんに準備頂いた鍋が目の前のコンロに運ばれてきた。野菜たくさん、ホルモンたくさんの鍋である。各テーブルそれぞれのタイミングで点火し鍋を温める。グツグツと煮える鍋からは、美味しい臭いが放たれ、「早く食べたい」という衝動に駆られる。それをグツとこらえてお酒をちびり。油須原駅に到着する頃に食べ頃をむかえ、早速頂いた。ホルモンと野菜とタレとが絶妙にからまって美味しいのなんの。実は、ホルモン喰楽歩さんのホルモン鍋を頂くのは3回目なのだが、過去2回はもちろんのこと、列車の中で頂いた今回は特に美味しかった。列車は、油須原駅で2回目のトイレ休憩があり、今度は、直方方面を目指して走り出した。途中の勾金駅で3回目のトイレ休憩があり、直方駅に到着したのは20時49分。ここから、列車は再び金田駅を目指して進むことになるが、我々は帰りの関係もありここで列車を降りた。

ホルモン鍋を食べながら、かてら（山本作兵衛が愛した清酒）や焼酎を頂き、会話を楽しんだ今回のホルモン列車は、あっという間に2時間が過ぎていった。



ホルモン喰楽歩による特製ホルモン鍋



ホルモン鍋が並べられた車内

●ホルモン列車の本格実施に向けて

初めにホルモン列車の話聞いたときに気になったことが2つあった。1つは、臭いである。臭いが車内に染みついてしまえば、翌日以降の運行に支障をきたすことになる。もう1つは、列車の揺れにより鍋の具材等が飛び散らないかであった。

1つ目については、気になって次の日に平筑の方に聞くと「大丈夫」であり、逆に床に敷いた畳の臭いが気になったとのこと。2つ目については、底の深めの鍋を利用することと、思った程、列車が揺れなかったということで、悪ふざけすることなく、普通に座って鍋をつついていけば「大丈夫」であった。

本格実施に向けては、他にも解決しないといけないことがあるかもしれないが、今回、試乗させてもらった限りでは、十分に楽しめた。実現に向けてまた一歩近づいたのではないだろうか。ちなみに、今回はホルモン鍋の他に、ビールとお酒、それに、おにぎりとおつまみが付いて料金2,000円（飲み物の持ち込みは自由）であった。出来ることから次々と展開することで、平筑のみならず、地域の活性化につなげていくことが望まれる。

※「田川ホルモン喰楽歩」とは…「田川人のソウルフードである「ホルモン」を日本全国、いや世界中に発信するために設立した、田川のホルモンをこよなく愛する人たちのためのコミュニティ」として活動しており、「B-1 グランプリ in 北九州」では初出場ながら6位入賞。

(やまさき ひろゆき)

大分（中竹中・別府）防災研修&慰安ツアー

寺山 香

4月末、昨年度事業も一段落したころ、大分に行ってきました。目的は、昨年度事業である「災害時要援護者避難支援事業」でビデオ出演し、福岡県内の防災関係者内で一躍有名人と化した大分県中竹中地区防災会の防災士である一水勝徳氏にお話をお聞きすることです。

●災害が多く、危機意識の高い中竹中地区で講話とハイゼックス炊飯を体験

大分市から電車で揺られること約20分、そこからさらに車で5分ほど進んだところに目的地である大分市中竹中地区があります。

中竹中地区は、大分市の南部に位置し、南北にJR豊肥本線と大野川が通っています。古くから災害が多い地域であり、実際に昭和16年には14件もの家屋が雨で流されるなどの被害に遭われています。そのような地域性のため防災意識が非常に高く、大分大学福祉科学研究センターの「福祉のまちおこし研究事業」のモデル地区に選定されるなど、要援護者の把握と地域の防災力の向上を目指している地域です。

会場についてすぐ、大分県のLPガス協会の協力によりハイゼックス炊飯の講習を行った後、炊飯の時間を使って一水氏のお話を聞くことができました。

※ハイゼックス炊飯とは…包装食袋（ハイゼックス）を使った炊き出しのこと。ハイゼックス包装袋にお米と水を入れて30～40分沸騰させるだけ



炊飯する前のハイゼックス炊飯袋



一水氏（写真右から2番目）と中竹中のまちあるきを楽しみました

で炊飯が完了するため、災害時、電気がない状況でも最小限の材料でご飯を炊くことができる。

●地域の防災力向上は、地域のリーダーの危機感にかかっている

中竹中地区の防災活動歴としては以下のようになっています。

- 平成 18 年：バケツリレーなどの避難訓練を開催
- 平成 19～20 年：防災講話やハイゼックス炊飯
- 平成 22 年：災害時要援護者避難支援ワークショップの開催、要援護者の洗い出し
- 平成 23 年：家具の固定などの講話
- 平成 24 年：大分市全市一斉避難訓練

平成 17 年に一水氏が防災士を取得してから毎年何かしらの活動を行うよう頑張られているようですが、特に昨年度の全市一斉訓練では参加率が高く、地域の防災意識の高さに驚いたそうです。今では中竹中地区の防災活動に携わっている一水氏ですが、もとは防災意識の高い区長さんの鶴の一声で防災士取得を目指したそうです。

今号の「地域の防災力は地域の力で高めていくー岡垣町自主防災会長ヒアリング結果ー（4頁）」にも記載していますが、やはり地域の防災力を高めるためには行政の働きはもちろんのこと、地域住民、なかでもキーマンと呼ばれる方の必要性を感じました。地域のリーダー格の方がどれだけ防災に関して関心を示されているかによって、地域の防災力は左右されるため、地域のリーダー育成の必要性を深く感じました。

また、お話をお聞きして一番に感じたことが、



「旅手帖 beppu」の1ページより。自由に書き込める地図に、夢が広がります

一水氏は物腰が柔らかく、とても分かりやすく話をされているということです。地元の方と一緒に意識の高いまちづくりを行っていくためには様々な意見意識があることを理解した上で、住民にわかりやすく伝える技術が必要なのだなと、改めて学びました。

●災害時の食糧の確保は、想像以上に難しい

お話を聞き終わったあと、いよいよハイゼックス炊飯の試食です。これがなかなか美味しかったです。会社でも一度体験してみたのですが、食べられないこともない…と評価はまああだったのですが、今回は美味しく食べることが出来ました。

ポイントは、白いご飯だけだと食べられないので塩を入れること、味付けをする場合は濃い味付けをすることだそうです。皆さんも防災訓練で使うことがあるかもしれませんので、その際はぜひ色々な味付けで濃いめでお試しいください。

しかし、当たり前ですが普通のご飯と比べるとその美味しさは格段に劣ってしまう上に、場合によっては冷たくなったご飯を食べる必要があります。災害時であれば文句を言うわけにもいきませんが、今回は災害時において美味しいご飯を食べることのありがたみの片鱗を体験することができました。

その後、中竹中地区のまちあるきを楽しみながら、災害時の様子や、中竹中出身である歌手の南こうせつ氏の実家のお寺を見学するなど、短い時間ではありましたが中竹中地区を満喫しました。



別府の町を少し路地裏に入ってみると、とたんにレトロな雰囲気広がります

●レトロでアート、ちょっと不思議な雰囲気 of 別府を散策

夕方からは別府に移動し、別府のまちあるきを楽しみました。オンパクで一躍有名になった別府は、現在そのレトロな景観を活かしたまちづくりに力を注いでおり、NPO 法人 BEPPUPROJECT のもと、空き家を活用した展示会やセレクトショップの運営など、様々なアートプロジェクトを開催しています。また、昨年度は別府のまちあるきのガイド本である「旅手帖 beppu」を発行。このガイド本も、きれいな写真だけでなく、女性目線からみた工夫がたくさんあります。書き込み自由な白地図やスイーツ特集、はては温泉の入り方まで…。フリーペーパーとして数量限定で刊行しているため、残部少そうです。欲しいと思われた方はすぐに別府に向かわれることをおすすめします。

また、現在は別府市とタツノコプロダクションがタッグを組み、「エンタテインメントシティ別府」としてPRを行っています。タツノコキャラクターの展示会や駅前通りのパネル設置に加え、残念ながら今回は体験することが出来ませんでした。今後は「タツノコ風呂」なるお風呂も登場するそうです。どんなお風呂が登場するのか、今から楽しみです。そんなちょっとレトロで風情のある、魅力満載の別府を巡り、もちろん温泉も楽しんで（ついでに肌荒れも治ってしまいました！）別府の夜は更けていきました。（てらやま かおり）

東日本大震災地の復興状況を視察 岩手県（釜石市、大槌町、宮古市） を訪ねる

山田 龍雄

5月の連休後の8日～10日、技術士、建築士、不動産鑑定士、土地区画整理士、会計士などのグループである「地域づくり九州」を中心としたメンバー9名で東日本大震災地復興の状況を視察した。

今回の視察は、2市1町（釜石市、宮古市、大槌町）の被災地を視察するとともに、担当者から被災の状況、復興計画の話を書くという充実した内容であった。

なお、今回、視察地を訪れるにあたっては、事前に私が直接担当課に依頼、又は元UR（都市再生機構）に在籍されていた藤原正教氏に現地担当者を紹介していただいた。

初日、昼過ぎに花巻空港に到着、最初の視察地である釜石市へ向かう。1週間前までは東北地方も雪であったため、天気が一番の心配であったが、九州より少し肌寒い程度で、厚着をすることもなく、3日間を過ごすことができた。

車窓から東北の春を眺めながら、一路、国道283号線を東方面へ走った。

九州では桜の開花は3月末であったというのに東北はまだ満開でなく、九州に比べて杉植木の面積も小さく、樹木の種類も違うのか、山々の景色はベールがかかった薄緑といった印象であり、改めて日本国の長さや多様さが感じられた。

●釜石市～復興公営住宅整備は、途についたばかり
釜石市では、竹澤都市計画課長より復興公営住宅の取組み状況についてお話ししていただいた。

釜石市の復興公営住宅の計画戸数は約1,440戸であり、3月末時点で着工又は整備済の戸数は225戸。まだ計画戸数の約16%に過ぎず、復興状況としては、まだまだ道は遠い。

今年の3月に官民連携（新日鐵住金が所有する敷地に新日鐵興和不動産が整備した復興住宅を、完成後釜石市が土地・建物を買収する仕組

み)で岩手県で初めて木造を除く、集合住宅タイプの復興公営住宅54戸が竣工し、直ぐ満室となったとのこと。この公営住宅は、工期が早いということで鉄鋼フレーム構造の3階建てであるが、市街地内ではもっと戸数を稼ぐため、7~8階建てにできないかとも思ったが、この地域では高層に馴染めない人々が多いらしく、高層階の公営住宅は敬遠されている。土地効率の観点からみると、何とももったいない気がする。

現在、避難住宅に住んでいる人の4割程度が復興公営住宅を希望しており、他の市町村でも同じような傾向だそうだ。既存住宅440戸を含めた公営住宅戸数は約1,880戸となり、釜石市の世帯数約17,000世帯に対して約11%となる。昨年度の復興住宅計画段階の入居希望アンケート調査によると1,000戸程度であったのが、今年の3月時点で44%も増加している。この結果について市の担当者は、これからローンを組んで自前で家を建てる余力のある人は減っており、さらに復興公営住宅を希望する人は増えてくるのではないかと心配されていた。復興公営住宅は、5年後以降から払い下げが可能であり、このため市街地外縁部では木造戸建てタイプの供給がメインとなっている。現在、計画30団地のうち15団地が戸建て住宅であり、用地確保も時間がかかっているようだ。

将来、人口、世帯数とも減っていくなかで復興公営住宅には、多くの空き家が発生すると容易に想像できる。戸建てタイプは払い下げ可能としているが、将来、高齢化した入居者がどの程度払い下げに応じるのかも危惧される。

復興公営住宅整備の事業主体は、当初、県と市で半々とのことであったが、用地交渉の関係で県事業から市事業へと移行している。

市営復興公営住宅のみの事業費は約245億円であり、事業費の7/8が交付金で賄われ、市単費は約30億である。市の単費分は家賃で回収するという従来の公営住宅法の枠組みで運営されている。

平成26年度までにすべての地区で着工できることが目標であり、釜石市の復興公営住宅(県

営と市営)だけでも、約280億円程度の事業費が投入される。

自民党政権に変わって、できるだけ早く工事の槌音を響かせることが命題となっていることから、復興事業の集中投入は、被災地の復興バブルを生み出すかもしれないが、建設に係わる人件費や資財が高騰し、地方の建設業にも大きな影響が出そうである。

釜石市役所で1時間程度、お話を伺ったあと、大槌湾に面した鶴(う)住居地区の被災状況を見ながら、本日の宿泊場所の「宝来館」に向かった。

●震災の体験と悲しみを伝える相撲甚句

宝来館での夕食後、女将さんから二人の女性を紹介された。彼女らは、今回の大震災の状況と悲しみを歌詞にし、この震災の状況をいつまでも忘れないようにするため相撲甚句で多くの人に伝えようとしている。

今回の津波で家族や知り合いも失い、家も流された経験談あるいは釜石の奇跡といわれた釜石東中学校の生徒達の自主的な避難行動などを盛り込んだ相撲甚句の歌声は、お酒の酔いも手伝い、心に染みこんできた。1日目の懇親会が終了後、釜石で復興した「呑ん兵横丁」に出かけた。

この「呑ん兵横丁」は、26店が全て流され、釜石駅の近くに建てられた仮設店舗(プレハブ2階建て)で15店が営業再開している。ちなみに今年度まで家賃は無料であるが、来年度から有料となり、また、現地建替えができるのかも不明らしい。一時期は釜石製鉄所で働く人たちの憩いの場所であった「呑ん兵横丁」の行く先が気にかかる。

お店に入ると5~6人程度が座れるカウンターだけで屋台の雰囲気である。先に呑んでおられた70歳代の地元の方と東北弁のおしゃべりを聞きながら、釜石の夜を楽しんだ。

●九死に一生を得た女将さんの話に感動

朝早く、宿の窓から大槌湾を眺めると、小さな波が朝日に照らされ、キラキラと輝き、なんとも美しい。こんな穏やかな海が、突然、多くの命を奪った海になるのかというのが信じがた



2日目の朝、ロビーにて宝来館の女将さんの震災の体験談を聞く

い。

朝食後、女将さんから震災時の状況と復興の話を知った。

女将さんは、津波発生後、直ぐ裏山に避難しようとしたのだが、「津波てんでんこ」の教えに反して、津波の襲来に気づいていない近所の人に知らせるため引き返した。このため逃げ遅れ、波に一度はのまれて、もうダメだと思った矢先、一度目の波が引いた瞬間に頭の上に空気層ができ、必死にもがいて自力で山にはい上がったそうだ。

女将さんの話の前に、岩手県で最も市街地の被害が大きかった大槌町の津波襲来のビデオを最初から見せていただいた。津波は7回来たそうで、2回目の津波が一番大きく、この波でほとんどの家屋が流されている。第1波が来て、ほんの20数分間で大槌町のまちは壊滅状態となっている。このビデオでは、高台に避難した女性の方が、市街地で逃げ遅れた人に向けて必死に「逃げて！、逃げて！」と絶叫しており、凄まじい津波の襲来にどうしようもない憤りを感じる。

大槌町では死者、行方不明者含めて1,800人の被害が出ている。この津波襲来の速さを見たら、「津波てんでんこ」で言われている、兎に角、他人に構わず、後を振り返らず、自分だけ「逃げる」という意味がわかる。しかし、本当の「津波てんでんこ」の意味を、このあと女将さんから教わった。

同じ集落に住む目の不自由なお爺さんは、いつも家族に「津波が来たら、山の洞穴にいるか



大槌町の中心市街地の町方地区、津波襲来から20数分で街が壊滅、今は瓦礫も片づけられ、静かな大地となっている

ら」と言っていたそうだ。津波が来たときに家族バラバラに逃げ、明るく朝、それぞれがその洞穴に行くと、ちゃんとお爺さんは、昔歩き回っていた尾根の獣道をたどって洞穴に避難していた。これで家族全員が助かったとのこと。

「津波てんでんこ」は、津波が来たら、一人ひとりが決められた場所に集合すると信じて、逃げることであり、家族の信頼、絆があってこそ成り立つ教えなのである。

女将さんは、宝来館を建替えるときに、津波に備え、借金して鉄筋コンクリート造4階建てにした。当時、釜石で最も借金が多かったともいわれたそうだ。宝来館は、1階部分は水に浸かったが、あとは無傷であったため、被災後、避難所に指定され、津波で家を失った多くの人の一時避難所としての役目を果たした。

また、この宝来館のある集落では、砂浜の景観を守るため、高さ約14.5mの防潮堤の建設に反対し、16mの高台に全戸移転するを選択した。

●大槌町～役場の時計の針は、津波被害の時間のままで止まっている

大槌町は、井上ひさしが放送作家として書いたNHKの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルとなった島がある町である。

最近、建てられたというURの事務所に行き、視察担当の渡邊正彦氏を訪ねた。

すぐに市街地を見下ろせる古城跡から復興計画の話を知った。古城跡からみる市街地の風景は、今は瓦礫も片づけられ、静寂な大地と化しているが、津波襲来後は、木材や車などの瓦礫



大槌町の役場玄関口に取り付けられた時計
津波を受けた時間、午後3時25分のままで止まっている

が分散し、あたかも空襲を受けた地域のようにあったのではないかと思います。

渡邊さんが、昨年の7月にこの地に赴任したとき、お店はコンビニ箇所だけで、食べるものがなく、コンビニのおにぎりを3年分は食したとのこと。

復興事業は①復興区画整理事業、②防災集団移転促進事業、③防災漁業集落機能強化事業、④復興公営住宅事業の4本柱で行われている。

国の方で先ず津波のシミュレーションを行い、防潮堤の高さを決め、住宅を建ててはいけないエリア（災害危険地域）を決めている。

大槌町の市街地である町方地区の復興計画は、約30haを土地区画整理事業、約830世帯を集団移転事業（35ha）で高台移転させる計画となっている。土地区画整理事業のエリアは、2.0m嵩上げするそうで、嵩上げの土は、高台移転で掘削した土を持ってくるようだ。現時点では、絵が出来上がったという段階であり、地権者交渉や保留地への企業誘致などをはじめ、工事実施までは、まだ時間がかかりそうだ。

完成は、3年後の平成28年度を目途としているが、多分ずれ込むのではないと思われる。住宅は全く建設してはならない災害危険地域内の地権者が売却を申し込めば、国が買い取ってくれるとのことだが、売却された土地が虫食い状態になった場合、その用地の管理はどうか、効率的な用地活用ができないといった問題が発生するだろう。災害危険地域においては、将来的に土地の交換分合を行い、新たな土地利用を検討する必要があるようだ。



田老地区の「東北の万里の長城」といわれた防潮堤が崩壊している（画面奥の方）

城跡から降りて、被害を受けた役場跡を見にいった。今でも玄関先にはテーブルが置かれ、献花がなされている。この役場では職員130名のうち、主に防災担当として、1階で災害の避難業務にあたっておられた人々を含め、40名の尊い命が奪われた。

玄関正面に取り付けられている役場の時計は、津波に襲われた午後3時25分のままで止まっている。

この役場を震災のシンボルとして残そうとの話もあがっているそうだが、ここで亡くなった方の親族は、役場解体を望んでおられ、当事者の心情を考えると保存か、解体かは、簡単に結論づけられない問題だ。

●宮古市～東北の「万里の長城」と言われた防潮堤は無惨にも崩壊したまま

大槻町から一路国道45号を北上し、宮古市へ向かった。

宮古市は、相次ぐ市町村合併で約1,260km²（香川県の7割の面積、福岡市の約3.6倍）と岩手県では最も面積が大きい市町村となった。

人口は約5万7千人と岩手県沿岸部で最も大きな都市であり、現在、NHKの朝ドラ「あまちゃん」の舞台となっているのが久慈市、この久慈～宮古間を三陸鉄道の北リアス線が走っている。

宮古市の中心市街地は内陸部にあるため、津波被害は小さかったが、田老地区をはじめ、沿岸部の集落は大きな被害を受けている。

元九州都市整備センターにおられた牧野達次氏と宮古駅で合流し、昼食後、田老地区と鎌ヶ



田老地区に残る旅館。この最上階から撮影した津波を見せる震災記念館として修復し、残す予定

崎（くわがさき）・光岸地区の2箇所を案内していただいた。現地ではUR大阪から出向してこられた湊さんも同行し、説明していただいた。

田老地区は高さ約6.5mの防潮堤が約1kmに渡って築かれ、東北の「万里の長城」と言われたところである。今でも津波で倒された防潮堤がみられ、津波の威力を物語っている。

田老地区では人口1,400人に対して、約1割の141名が死亡・行方不明となっている。

防潮堤が、津波の勢いを減少させたという一定の効果は果たしたのであろうが、一方では、防潮堤があることで津波が迫ってくる様子かわからず、逃げ遅れた人もいたという。やはりハードばかりに頼っていてもダメであり、早く高台に逃げるのが最善の方法といえる。

田老地区のほとんどは、災害危険地域に指定され、住宅地は隣接地の山を掘削した高台移転となっている。その事業費は復興区画整理事業が約25億円、防災集団移転促進事業が約100億円と膨大である。防潮堤は再整備する予定であり、第1堤が高さ約14.7mと現在の約2倍強の高さである。景観的にどうなのかと思うが、景観より安全重視の思想のようだ。

次に中心市街地に近い沿岸部の集落である銚ヶ崎・光岸地区を案内していただいた。この地区では海側が災害危険地域に指定され、産業系や商業系の土地利用となっている、住宅系は山手の背面に配置し、津波に備えて山に逃げられる避難路を確保している。

この土地区画整理事業エリアの北側の住宅地区は、元々漁村集落であったことから宅地規模

が約50坪と小さく、減歩するとさらに宅地が狭小化することから、一部買取などを行い、減歩をさげる工夫が必要のようだ。

●将来の産業政策、雇用政策をどうするのか

大槌町町方地区、宮古市の田老地区、銚ヶ崎・光岸地区の土地区画整理事業の基本図をみると、特に災害危険地域では住宅が建設できないことから、ほとんどが産業用地と商業用地に色分けされている。本当に土地利用を進めるためには、やはり産業振興策と連動して整備していないと、画餅となるのではないかと危惧される。

全体的な印象としては、東北の復興は途についたばかりである。

しかし、今年度以降、工事のスピードアップが図られ、一日も早く被災地の人々が普通の暮らしに戻れる日が来ること、夜には街に明かり灯り、人々の明るい声が響く街になることを願いたい。（やまだ たつお）

コンクリートブロック塀より 垣根のまちづくりを目指す —はこぎきどんどん倶楽部の活動報告— 山田 龍雄

5月29日に箱崎商店街で催された“はしご酒”のイベント、「第2回はこぎきどんどん倶楽部」に参加し、3軒のはしご酒を楽しんだ。

「はこぎきどんどん倶楽部」では、3枚つづりが1セットとなったチケット(1チケット:3,000円)を購入すると、案内パンフに示されたお店を3軒、自由に廻れるという仕組みである。

小生は東区に居住しているが、知り合いの呼びかけがない限りは、箱崎で呑むことはない。

本当に数年ぶりの箱崎の夜であった。当日は「はこぎきどんどん倶楽部」の案内パンフのデザインをされた箱崎在住のイラストレータの大司さんに案内していただいた。1軒目のお店では「刺身3種盛、野菜の天ぷら4種、小鉢2品。生ビール1杯」で、お得感十分の料理をいただいた。大司さんのおかげで、店主の方との会話も弾み、ほどよく酔っぱらってしまった。



はこぎきどんどん倶楽部の参加店マップ

また、箱崎にもなかなか魅力的なお店があることを再認識させられた。

折角の機会なので、この「はこぎきどんどん倶楽部」の企画を立ち上げ、行動された仕掛け人の一人である舩越希代さんに、箱崎への思いや立ち上げの苦労話などを聞かせていただいた。

ちなみに舩越さんは、飲食店とは無関係で箱崎商店街の中央部で老舗の履物店（戸部田はきもの店）を営んでおられる。

●第1回目は、目標を遙かに上回る成果

舩越さんは生粋の箱崎っ子であり、20数年前から箱崎のまちづくり活動のお手伝いをされてこられた。しかしながら、箱崎商店街は若者向けのオシャレなお店ができてきている半面、空き店舗は増え、少しずつ元気がなくなってきている。舩越さんが、なんとか商店街を盛り上げることができないかと、思い巡らせておられたなか、一昨年、福岡商工会議所経営相談本部東センターの所長から箱崎商店街会長を通じて、「はしご酒イベント」の呼びかけがあり、商店街連合会の会員4～5名のチームを組み、昨年、「第1回はこぎきどんどん倶楽部」を催された。

舩越さんは、箱崎を盛り上げたいという強い思いと、3年前に「バル・ウォーク」にも参加され、この種のイベントの雰囲気はつかんでおられたので、なんとか出来るであろうということで引受けられた。

第1回目は参加店舗20軒、チケット200枚を目標としたが、箱崎商店街連合会に加盟している飲食店は4軒のみ。あと最低でも16軒の勧誘が必要であった。まず、どの飲食店から勧誘して廻るかを悩んでいたときに、facebookで知り合った人を通じて箱崎の飲食店の若手経営者グループ（6店舗）を知ることができ、このグループからの紹介で、一挙に飲食店の輪が広がった。また、面識のない飲食店に勧誘に行くときには「保険の勧誘のようだった。1回目で説得できない場合、2度、3度とお願いに行って、箱崎を盛り上げたいという思いを伝え、協力していただいた。この時にはお金のことなど関係なく、志と熱い思いが伝わるかどうかであった。」と今では笑いばなしのように話されるが、当時のご苦労が偲ばれる。

このような勧誘活動や関係者の応援のおかげで、第1回目は参加店舗34軒、チケット400枚と目標を遙かに上回る結果となった。特にチケット販売では東区役所、商工会議所、自治会等の応援があり、多く販売することができたとのこと。

●ターゲットはワンルームの居住者

今年の2回目は、昨年の実績で箱崎の各飲食店にも「はこぎきどんどん倶楽部」の情報が伝わり54店舗、チケット販売約850枚と昨年の倍近い成果をあげられた。

昨年の「はこぎきどんどん倶楽部」では、JR

鹿児島本線東側の参加店舗が4軒と少なく、魅力がなかったため、重点的にこのエリアの店舗を勧誘された。新たに8店舗が加わり、JR鹿児島本線東側のエリアにも多くのお客さんが足を運んだという。

船越さんに、このイベントに対する思いをお聞きすると、「はこぎきどんどん倶楽部には、先ずリピーター客となる地元の人に来てもらいたい。地元の人も、このイベントをきっかけに箱崎にはこんな素敵なお店があることを知ってもらい、博多駅周辺、天神・中洲でなく、ここで呑んでもらいたい。外に向けては、この活動を通じて箱崎は何か面白いことをやっているぞ、元気があるぞという発信をしていき、少しでも箱崎に注目してもらえればと思っている。

箱崎には学生をはじめ、一人暮らしの人が住みやすいということでワンルームマンションが多く建っている。このワンルームマンションの一人暮らしの人を第一のターゲットとしたいと思っている。一人暮らしの人が、箱崎の飲食店に通い、そこで店主やお客さんとの交流が生まれれば、箱崎という地域が好きになり、地域に馴染むことで、結婚しても箱崎は良かところだから、住み続けたいと思うようになるのではないかと、単に短期間での商店街活性化だけでなく、将来の箱崎を見据えた構想を抱いておられる。来年は、ワンルームマンションへのチラシ配布も是非行いたいとのこと。

●将来は、飲食店だけではなく、物売りやサービスマスでも展開

今後の「はこぎきどんどん倶楽部」の将来について伺うと「今は、飲食店と一部イベント等を行う店舗だけの加入となっているが、来年以降は、1枚500円セットのチケットとして昼ランチやテイクアウトできるお店も増やしたい。お昼だと1,000円チケットは高すぎるし、提供できる商品も難しい。500円チケットだと昼に気楽に利用できるのではないかと。あと飲食店だけではなく、物売りをしているお店も参加できるような仕掛けもしたい。例えば肉屋さんでコロッケと美味しいお肉何グラムセットというように日頃より割安感の商品を提供してもらえ

ばもっと多くのお店が参加できる。また、箱崎が昔から取り組んでいる音楽イベントなどと組み合わせると、さらに、はこぎきどんどん倶楽部の可能性は広がるのではないだろうか。将来は、期間限定の地域通貨的な利用になれば良い」とおっしゃっておられた。「はこぎきどんどん倶楽部」というチケット制のはしご酒システムは、飲食店だけではなく、多くのお店や人々の輪を広げる可能性があることを再認識した次第である。

また、この活動から色々な自主的な活動グループが生まれ、アメンバー状にまちづくりの輪ができると、もっとまちは面白くなるともおっしゃっておられた。

●住む人を地域が選ぶまちにしたい

最初、船越さんが言われる「住む人を選ぶまち」といったフレーズの意味が分からなかった。なかなか意味深である。勘違いして記述してはダメだと思い、その真意を聞き返した。

「箱崎というまちが、住む人を選ぶまちになればと思っている。つまり、昔の地域で普通にみられた人と人とのつながり、困ったことがあったら隣近所で助け合う。『ちょっと子どもを預かって』といえる近所付き合いのあるまちにしたい。一言で言うと、コンクリートブロックの塀ではなく、垣根のまちというイメージだ。

人を選ぶまちということは、少々面倒な面はあるけれども、このようなつながりのある雰囲気のあるまちに、住んでみたいという人だけに住んでもらうようなまちになればと思っている。

箱崎小学校は、昨年140周年を迎えた伝統ある小学校である。箱崎にはマンション居住者が増えたとはいえ、昔ながらのコミュニティもあり、素敵な飲食店やお店もある。もっと地域の人と交流し合い、「はこぎきどんどん倶楽部」をはじめ、いろいろな活動が交差し合い、低い垣根のまちとなっていくことを期待したい。

1時間半ほど話を伺うと外はすっかり薄暗くなっており、船越さんにお薦めの店を紹介していただき、一人はしご酒を楽しみ、帰途についた。
(やまだ たつお)

近 況

アドテック九州に出展しました

6月5、6日の二日間、福岡市で開催された「アドテック九州」というイベントに参加した。アドテックとは、デジタルマーケティング、インターネット広告技術の見本市で、これまでロンドン、ニューヨーク、シンガポール、東京など世界8都市で開催され、2012年の東京会場には、二日間で2万人以上の来場があったというビッグイベントである。アドテック九州は、その初の地方開催版として開催された。

事の次第は3月下旬、知人のリエゾンラボ・田中淳一さんから、アドテック東京の主宰者であるdmg イベントスジャパンの武富社長をご紹介いただき、お食事をご一緒したことから始まった。武富さんは「アドテックを九州で開催するからには、九州の物産紹介など、地域性を感じることができるブースを作りたい」という考えを持っておられ、その意向を受けて田中さんが私を紹介してくれたのだった。アドテックで物産ブースを設置するのは初めてらしく、どうも「九州各地の物産関係者にネットワークがある会社」ということで声がかかったようだが、そもそも、こういったIT系のイベント・展示会に行くのも初めて、物産コーナーを運営するの

も初めて。安請け合いしても大丈夫なのだろうか、と一瞬悩んだが、何事も経験ということで、お受けすることにした。

それから、物産ブースのコンセプトをどうしようかと悩んだ。運営面では、他にもっと上手くできる会社はいくらでもあるだろうが、弊社ならではの、というウリをどうつくるか。そこで思いついたのが、九州・地域の活性化や社会問題の解決など、単にモノを作る・売るだけではなく、広いビジョン・理念を持って活動している企業・団体をご紹介したいということである。

程度の問題はあるにしろ、どこの企業・団体でも情報発信や販路開拓には少なからず課題が存在していると思うが、素晴らしい理念を持った九州の企業・団体と、世界の最先端のマーケティング技術が出会った際に、どのような化学反応が起こるのか見てみたいし、少しでもお役に立てればと思った次第である。

そこで、私からは下表の企業・団体にお声かけをした。

このほか、田中さんからご紹介いただいた「ギャラリーふじやま」と「虹の松原ホテル」が、それぞれ、有田焼のブランド「青花」と「からつスムージー」を販売した。

アドテック九州には、facebookのアジア統括責任者やamazonジャパンの社長、武雄市の樋渡市長、堀江貴文さんなどが登場し、当初3,000人の来場の予想に対して約3,500人が参加した

お声かけした企業リスト

団体名	団体概要	商品	商品概要
(NPO)グラウンドワーク福岡	福岡県八女市上陽町(過疎地域、中山間地域)の活性化、東北大地震の復興事業	芋焼酎「環」、鮎の燻製	都市住民と協働で、耕作放棄地に芋を生産・収穫。採れた芋を地元の酒造所(後藤酒造)でつくった焼酎。売り上げの一部は「地域の豊かさ基金」として積み立て、まちづくりに活かす。
社会福祉法人さつき園	福岡県宗像市における障がい者の雇用の場づくりと、農業再生の両立	みかんのリキュール、菓子	障がい者が、人手不足で困っている地元宗像の温州みかんの収穫をお手伝いし手作業で絞った汁でつくったリキュール。
酒蔵ツーリズム推進協議会、原岡酒店	日本酒を核とした地域振興(鹿島酒蔵ツーリズム)やイベント等でのPR	佐賀の日本酒各種	「鍋島」の飯盛社長、「東鶴」の野中杜氏みずから紹介。鍋島、能古見、東鶴、東一、岩の蔵、万齢、天吹を販売。
(株)プリミー	熊本県天草市で、プリ・マグロの養殖・加工・販売輸出に取り組む	天空マグロ	世界で初めてマグロの完全養殖に成功した近畿大学から稚魚を仕入れ、世界で初めて完全養殖マグロの量産化に成功。
(株)インピル	佐賀市富士町の「地域おこし会社」として、農産物、加工品の販売や政策提言を行う	弁当、菓子、総菜	近隣の山で採れた山菜を使ったお弁当、古湯温泉の旅館女将が作ったコロッケサンド等。
JR九州農業推進室	JR九州の多角化、社会貢献のための新規事業	うちのたまご、トマト、サツマイモ等	飯塚市で養鶏・採卵された「うちのたまご」、玉名市で生産された「トマト」等の紹介。
合同会社岬	農業・観光振興等、鹿児島県南大隅町の活性化に幅広い角度から取り組む地域中核企業。	本土最南豚の豚井、佐多岬カレー、しらす丼、大隅半島の物産等	本土最南端の町、南大隅町で育てられた「本土最南豚」を使ったテイクアウトメニューや、地元のB級グルメ大会で優勝したしらす丼の販売。



所狭しと商品が並べられた「アドテック市」ブース

そうで、イベントとしては成功、来年の開催も決定したそう。アドテック市も、九州の物産紹介コーナーとしての役割を果たすことができ、facebook 等の SNS 上でも、「鍋島大吟醸が売られている」と数名の発信力のある方々に PR していただいた。アドテック九州というイベント自体や主催者である dmg イベントズに対しては一定の貢献ができたと感じるが、出展者の皆様に対しては、売上という意味では期待を恐らく裏切り、ビジネス上でのパートナーや自社に応用出来る技術との出会いがあったかという点、そこはまだ分からない。

当日の出展料は、通常テーブル5つ分のスペースで50万円必要なところを、よかネットがプロデュースするスペースについては主催者側に無料としていただいた。そこで、お声かけさせていただいた各企業・団体からの出展料を無料とするかわりに、弊社の仲介手数料として、売上の10%いただくことにした。結果、アドテック市全体の売上は二日間で合計約20万円。当初の見込みを下回り、出展者の皆様からも「伸びなかった」という意見が大半であった。

要因としては、物産ブースは来場者のメイン動線上になかったこと、当初割り当てられていたスペースよりも実際は狭かったため商品を置くスペースが限られたこと、想定していなかった(株)プレナスの出展による強力な競合「ほか弁」の登場など様々あったが、全体的に参加者のマインドが仕事モードであり、ノウハウ吸収やネットワーキングを目的とされているため



右が飯盛社長。大吟醸、愛山純米吟醸、雄町純米吟醸、サマームーン、特別純米を用意

物産を買うノリではなかった。そこの読み違いが大きかった。しかしながら、各店舗の売り上げ管理と手数料計算、保健所に対する飲食店臨時営業許可の取得方法等、物産展開催のノウハウはある程度身についた（こんな機会がもう一度あるかどうかは分からないが）。

蛇足ではあるが、初日の夜に開催され、300名以上が参加したネットワーキングパーティーにおいては、富久千代酒造の飯盛社長が鍋島純米大吟醸、夏季限定酒等を振る舞うコーナーをコーディネートさせていただいた。以前開催した「佐賀の日本酒を飲む会」や鹿島酒蔵ツーリズム協議会への参加がこの場に繋がったというある種の感慨があった。

都市計画のコンサルタント業界は、世の中の景気が良くなると、自治体の税収が伸び、自治体の調査・計画業務が増加し、仕事につながるというように、景気の波から大凡2年遅れで影響がある。アベノミクスの影響はまだまだ感じられず、厳しい状況が続いている。そういう意味では今回の物産展は私の中では一つのチャレンジであったし、今後もこれまで築いたネットワークをどう新規事業に繋げることができるか、飯の食い扶持を探す様々な努力をしていかなければならない。

アドテック九州への出展にご協力いただいた企業・団体の皆様には、労多くして功少なしという結果になりご負担をおかけしたかもしれませんが、ご協力していただいたこと心より感謝申し上げます。（原 啓介）

公共施設のマネジメントセミナー

厳しい行財政状況の中で、高度経済成長時代の施設の老朽化に対応した公共施設の維持管理方策を考えます。

開催日：平成 25 年 8 月 1 日（木）

時 間：14:00～17:00

参加費：無料

定 員：50 人

場 所：アクロス福岡（606 会議室）

〒 810-0001

福岡市中央区天神 1 丁目 1 番 1 号

TEL 092-725-9111（代表）

※セミナー終了後、講師を囲んだ交流会（17:30～）を行ないます。会場はセミナー会場近くを予定しております。先着 30 名、参加費（3,000 円）は、当日会場にてお支払いください。

基調講演 14:00～14:50

公共施設マネジメントの現在と未来

山本 康友 氏（首都大学教授）

パネルディスカッション 15:00～16:30

○地方自治体における公共施設マネジメント展開のポイント

桑野 斉 氏（地方自治研究機構）

○公民連携プロジェクトの取組み ※予定

○公共施設マネジメントの現状報告 ※予定

コーディネーター：谷口 博文 氏（九州大学教授）

質疑応答 16:30～17:00

共催：九州 P P P センター（株式会社産学連携機構九州）、株式会社よかネット

【お問い合わせ・お申込み先】

公共施設マネジメントセミナー事務局（株よかネット内（担当：本田・山崎）

〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8 F

Tel：092-283-2121 Fax：092-283-2128 E-mail:honda@yokanet.com

編集後記

【経】国際リニアコライダー（ILC）の国内候補地一本化の時期は 7 月末と言われており、いよいよ目前に迫ってきました。最近、ILC についての新聞やテレビでの報道を目にする機会が増え、認知度や期待の高まりを感じます。私も、ILC 誘致に向けた web & 紙面での署名活動に参加しています。ご興味のある方は、「ILC・九州」で検索してみてください。（は）

【経】わが家は、山の上にあります。夏場には、沢山の虫がやってきます。私は虫が大嫌いです。チクゴのまち歩きに参加させてもらい、内野樟脳さんのオイルを購入しました。ベランダと玄関廻りに、振りまいています。（さ）

よかネット No. 111 2013. 7

（編集・発行）

（株よかネット）

〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3 番 8 号
福岡パールビル 8 階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

[mail:info@yokanet.com](mailto:info@yokanet.com)

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6942-5732

東京事務所 TEL 042-501-2531

名古屋事務所 TEL 052-202-1411

（株）地域計画・名古屋